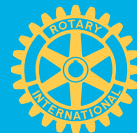




人類に奉仕する
ロータリー

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



会報

2016 ▶ 2017
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **友情の和を拡げ
奉仕の和を拡げよう**

会長／渡邊裕久 幹事／高橋理佳

プログラム

- 本日

「我が生い立ち」	関野 紘史 会員	会員誕生日	佐々木 繁	結婚記念日	二ノ宮 清 信
「委員長退任挨拶」		配偶者誕生日	長谷川 幸 江		長谷川 哲 哉
- 次週予定

「理事・役員退任挨拶」

No. 2744

第43回 6月7日

出席報告

前例会

会員総数……………35名
 出免会員……………5名
 出免出席……………3名
 基準会員出席…………17名
 出席率……………60.61%

前々例会

第40回 5月17日

欠席会員……………14名
 内メイクアップ…………5名
 修正出席率……………72.73%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告 ……………

1. 先週IM出席のため羽幌に行かれた方、大変お疲れ様でした。本当に素晴らしいIMでした。次年度は深川で、再来年は留萌で開催されます。
2. ライオンズクラブより5月13日に開催された331-B地区第63回地区年次大会出席に対する礼状を頂きました。

た定款細則について、理事会にて承認致しましたので、皆様に送付させて頂きました。この件につきまして、留萌RC細則第17条により例会にて採決が必要となります。6月7日の例会にて採決を取る予定ですので、皆様におかれましては日程調整をして例会出席をお願いします。

📁 幹事報告 ……………

- 函館RC地区研修協議会実行委員会より、札幌市において開催された地区研修協議会の報告CDが届いております。次年度にお渡しします。
- 過日開催されました諮問委員会より提言され

👥 委員会報告 ……………

次年度幹事 阿部 会員
 次年度の活動計画書作成のため、皆様のテーブルに会員名簿のコピーを置いてあります。会員皆様にはお願いですが、各自自分の所をチェックして間違いがないかご確認下さい。なお修正がありましたら、訂正して下さい。確認終了後には、確認済みのチェックを入れておいてくだ

さい。

次年度会計

高田 会員

次年度理事会からお知らせいたします。会費の納入につきまして、4種類の納入方法を提案させて頂きました。後日、皆様にはFAXにてお知らせいたしますが、出来れば一括納入を希望します。もちろん前期後期の2期に分けての納入もOKですが、よろしく願います。



ニコニコBOX.....

- 松下様、本日は卓話をいただきありがとうございました。 渡邊会長
- IMのご参加ありがとうございました。 高橋幹事
- 会報に写真が2枚も写っていました。

高田 会員

前 回	654,750円
今 回	3,000円
累 計	<u>657,750円</u>



プログラム.....

来賓卓話「発達と障害」

留萌市幼児療育通園センター

センター長 松下 高広 様

本日はお招きいただき誠にありがとうございます。留萌市幼児療育通園センター・センター長を務める松下と申します。また留萌RC様には当園に対してご寄付いただき、誠にありがとうございます。感謝致します。ご寄付いただいた物については、センターに来ている子供たちが有意義に使わせていただいている所でございます。

本日はセンターの事についてお話をすれば良いと思いましたが、せっかくの機会ですので発達と障害などにポイントを当ててお話を進めたいと思います。時間がありましたら、センターについても少しお話をさせていただきます。

日頃、障害と言っても色々なものがございま

す。障害についてお話をさせていただくのに、どの切り口でお話をすれば良いのか考えましたが、切り口が変われば中身も変わってきますので、特別支援学校の種類として障害を述べさせていただきます。視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱の種類があり、幼・保育園から小中高、大学まで、どういうケアがされるかと言うと、小中学校では特別支援学級、通級言葉の教室などがありますが、特別支援学校の守備範囲としては、学校にもよりますが、幼保育園から高等支援学校まで、幼児から高校卒業程度までの子供たちをカバーしております。

それではどういう所に学校があるかと言う事で都市名を書いてみたのですが、視覚障害で言いますと札幌、函館、旭川、帯広と都市部にしか無いのが現状です。聴覚障害では札幌、函館旭川、帯広、釧路、室蘭、肢体不自由では札幌函館、旭川、岩見沢、網走、白糠、となっています。知的障害につきましては特別支援学校がありますが、留萌管内においては、小平高等養護学校があり、留萌管内近郊では雨竜高等養護学校があります。留萌市内からこれらの学校に通うとなると遠い感じが致します。これらの学校も定員があり、ともすると旭川圏まで行かなければならない事もあります。留萌の子なのに札幌まで行かなければならない事も過去あったと聞いています。全道各地にあります。道央圏は恵まれています。地方の方は通うのも大変で、寄宿舎に入らざる得ない方がほとんどです。

最近は障害と言われても、視覚障害や聴覚障害、肢体不自由においては脳性麻痺など見ただ目で判断できるものもありますが、知的障害の分野で発達障害と言われるものが出てきて、先週の日曜日にNHKスペシャルをご覧になった方はいませんか。NHKでも時々障害、発達障害を取り上げた番組をやっている時がございます。どういう事かと言いますと、見ただ目の所では普通の健常者の方と変わりがない方ですが、ついでに診断名を見ますと、自閉症、自閉症スペクトラム、広汎性発達障害、アスペルガー障害、読字障害、学習障害などを

総称して発達障害と言っていますが、この様な方々が増えているのが現状です。これらは何か課題をする時に起こる障害で、学習する時に起こる障害とか、日常ご飯を食べる時に起こる障害とか、仕事をする時の障害など、本人が抱えている障害が本人にとってどうかという問題を置いておけば、暮らしていく、学習していく時になって壁になっているのが障害と言えるのではないかと思います。例えば、脳性麻痺にも色々ございますが、脳の障害です。生まれた時から起こるお子さんが多いのですが、専門用語になりますが、非対称性緊張性軽反射と言うものがありまして、これは何かと申しますと、生まれたばかりの赤ちゃんというのは色々な原始反射を持っています。例えば赤ちゃんの口に指を近づけて、ツンツンとやれば吸い付いてきます。あれは吸てつ反射と言いまして、お母さんのおっぱいと思うと吸い付いてくる、赤ちゃんが意志をもって吸うのではなく、ほとんど原始反射によっておっぱいが飲めるようになっています。ただ大きくなってくると、口をツンツンとしても吸い付く事はなくなってきます。ではいつの頃からこれが無くなってしまふのかと申しますと、1歳頃までに子供が食べ物などを認識し、その中でどう暮らして、どう体を動かしていくか色々経験してだんだん原始反射が隠れて見えなくなっていきます。先ほど言った非対称性軽反射というのは何かと言いますと、左の方を向く、脳性麻痺のあるパターンの方は、向いた方の側、つまり左手が伸び、左足が伸びます。片や後頭部側の手や右足側の足は屈曲します。つまり歌舞伎の様な格好になります。この反射はどの子もありますが、やがて消えます。しかし、これがずーっと残っているのが脳性麻痺の子供です。これが残ると何が困るかと言いますと、例えばここに鉛筆やコップがあって、飲もうとしてコップを取って飲もうとした時、左の方を向いていますので、左手が伸展します。曲げようと思ってもこれは努力では曲がらないのです。曲げなければ反対を向かなければなりません。そうすると飲めないのです。これは極端な話ではありますが、体に残っている障害が



何か課題を遂行しようとした時に障害が起こってくる。ですからこちらを向いていても、どうやって手を曲げたら良いのかを訓練していく訳です。これは肢体不自由児の子供達のはなしです。

発達障害の子供達のお話にもどりますが、発達障害等々の子供達は一見、見た目には健常者の方と変わりがありません。しかし様々な障害を持って暮らしております。例えば、昔の有名な人達で言えば、織田信長や坂本龍馬、レオナルドダヴィンチ、エジソン、アインシュタインさんなどです。エジソンさん、この方は小学校を落第した、勉強の出来ない子供でした。織田信長さんは皆様もご存じの通り、場面とか状況の流れを考えずにどンドン思い付きで行動するあたりは、私どもに言わせるとまさにアスペルガー障害という分野に収まる方々です。一方同じようなタイプなのですが、違うのが黒柳徹子さんや長嶋茂雄さんなどが、独特な言葉の使い方をしますが、また、有名な外国の俳優さんでトム・クルーズさんは読字障害があり、脚本が読めず、どうするかと言いますとスタッフが自分の会話の所を録音して、それをトムさんが聞いて覚えるという、素晴らしい俳優さんですがその様な障害を持っています。これらの方々は有名な方々ですが、特異な才能を持っている方々かなと思います。これらの方々は広汎性発達障害の疑いがございます。

少し前の事になりますが、平成22年3月に出された週刊現代の巻頭特集に東京大学について、東大までの人、東大からの人という記事が載りました。何が書かれていたかと言いますと、最

近東京大学で増えているちょっと違和感のある学生たちの話で、対人関係が苦手、場の流れを壊すとか、相手に対してズケズケと物を言うとか、デリカシーが無いと言われていきます。そんな子たちは勉強だけは出来ます。ですから小中高校とトップで行きますが、どこで困るかと言いますと、就職のときの面接になるそうです。面談の中で居並ぶ方々の中で面接を受けます。聞かれている内容がその東大生にしてみれば、レベルが低いわけで、途中で質問を遮ります。「ちょっと待ってください。今私に質問をしている方はどちらの大学のご出身ですか？」と。その役員の方がとある3流大学の出身であれば、「貴方は私に対して質問する権利はありません」とズケッと行ってしまいますので、そんな事を言う生徒は当然のごとく会社ではいらないと言う事になってしまいます。この様な事が東京大学で起きているとの事です。北海道内でも札幌大学ですとか、文教大学など国公立の大学にも出来てきておりますが、学生課の中に学生相談室と言うものが出来ています。何をするかと申しますと、この様な読字障害とかいろんな方が居りまして、書けない子もいるのです。そういう子供は書けないと卒論が書けませんので卒業出来ません。ですから1年生の内から相談を受け付けています。実は私は2年間だけ高等学校の校長を務めておりましたが、十勝の幕別高校という所で、校長会が月1回ありまして、4月に行った時、ある学校の校長から相談を受けました。入学式のときに生徒の母親が来て相談があるとの事で、「実は私の子供は2種類の障害者手帳を持っており、身体障害者手帳と、療育手帳を持っており、ついては学校の勉強についていけなくなる事も予想されるのでよろしくお願ひしたい」と言われ、その校長がどう対応して良いかわからないとの事でした。一見、見た目にはわからない障害を持った子供達が、色々な所に進出しているのが今の現状です。留萌ではまだ調べておりませんので申し訳ございませんが、十勝の事になります。十勝管内にあります全ての中学校の特別支援学級の卒業生の進路先を追ったデータがあります。卒

業生87名のうち約半分の方が特別支援学級に進学していますが、公立の全日制高等学校や私立高校に進学しており、何が言いたいかと申しますと、学力がトップの子も多少知的に劣る子も、今だんだん高等学校に通う様になってきています。十勝管内のデータですが、特別支援学級に通う子供達の中で自閉症、情緒障害の子供が増えています。平成27年度から急激に増えており、平成25年度に比べ28年度は倍増しているのが現状です。これは自閉症、情緒障害である事がわかって来たからです。

今年度3月現在の留萌市、増毛町、小平町の統計になりますが、療育対象支援児童の数、これから学校に入ります子供達の中で、すでに障害が確定している子供と、これから経過観察で確かめなければならない子供達の数を示しております。今年29年度、学校に入った子供達の内、要療育と経過を見たいという子供達が71名おります。来年入学する子供は81名、再来年入学する子は74名と大変多くなっています。34年・35年では数として少なくなっていますが、これはまだ生まれたばかりで判らない子供がおりますが、それでも生まれたばかりで既に療育が必要だと言う方がこれだけいるという事です。

時間が無くなってきましたので、通園センターの事を少しお話したかったのですが、本日持ってきた資料に目を通していただければ分かると思います。本日皆様に強調したかったのは、色々な障害の子供が増えてきている、幼児からの療育教育がとても大切だという事をお話したかった訳でございます。最近、通園センターに見学に来る方が増えております。来月は民生委員の方々がお越しになります。行事をしている時は少し大変ですが、何も無い時には是非、皆様も見学していただければと思います。話が少し中途半端ですが、これでお話を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。